

ガードレール用金属片付着防止ボルト

セーフティボルト

国土交通省 新技術情報提供システム (NETIS) 掲載製品
愛媛県「新商品生産による新事業分野開拓者認定制度」認定製品

登録番号：SK-070024-A
認定番号：21-003

ボルトの取替えだけで
安全に!!



セーフティボルト



従来品



※従来のガードレールの形状を変更せずに金属片付着防止を行うボルトです。
※ボルトねじ部を偏芯させ、ボルト頭部とねじ部の間に金属片等が付着されません。

全国のガードレールで鋭利な金属片が相次いで発見され、その金属片により、自転車利用者が負傷するという事故が発生し、大きな社会問題となりました。その金属片は車両が防護柵に接触し、車体の一部がボルトの頭に引っかかり、付着発生することが主原因とされています。

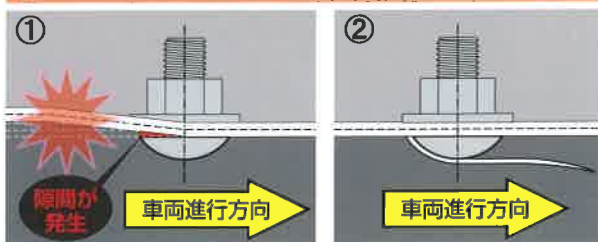
そこで、新設のガードレールはもとより、既設のガードレールにも対応でき「最小の投資で、最大の効果！」を発揮するのがこのセーフティボルトです。

事故発生



ガードレールの継ぎ目（ボルト前後）に車両接触事故発生！

接触部の拡大(従来のボルト)

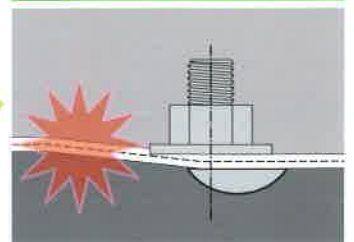


① 車両の衝突により、隙間が発生し、ボディを噛み込む。

② ボディを噛みこんだ後、車両の通過により、引きちぎられ金属片が発生する。

セーフティボルトでは…

接触部の拡大(セーフティボルト)



ボルトが偏芯しており、隙間が「0」になる為、車両ボディを噛み込まない。
= 金属片が付着しない。

各種試験の様子



ボルト取付状態での ガードレールの 破壊状況

(引張せん断試験)

指導：愛媛大学大学院 西田稔 准教授



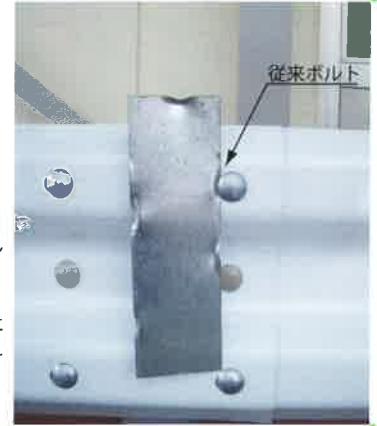
試験結果よりボルトが偏芯している事で、ボルト及びガードレールの破壊状況は従来のボルトと遜色ないことが分かった。

挟み込み実験

(自社実験)

厚さ1mmの鉄板を進行方向に対し浅い角度を付けてハンマーで打込む。

従来のボルトは挟み込まれたがセーフティボルトは頭部を滑り、挟み込みはなかった。



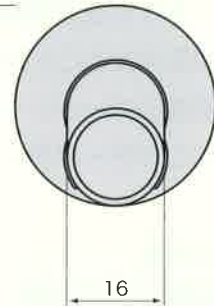
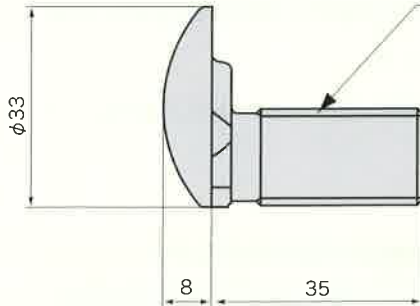
セーフティボルト 設置現場検証



接触箇所=1箇所 (約330m区間)

外観塗装の剥がれはあるが
性能上問題なし。

R196 愛媛県今治市大西町別府 (34k400付近)



表面処理 HDZ35

※商品の価格及び仕様は、予告なく変更される場合がありますので、予めご了承ください。

お問い合わせ先

発売元



交通安全施設工事全般

株式会社 四国ライト

開発元

有限会社 アールエスカンパニー

〒794-0084 愛媛県今治市延喜甲840番地1
TEL(0898)31-8851 FAX(0898)31-8801
<http://www.shikokuright.co.jp/>